

2025 年 5 月 11 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒187 番 (SK 姉)

『主は来たらん再び』

聖書⇒詩篇 23 編 (交読) (MM 姉)

『主は羊飼い、
わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草の原に休ませ／
憩いの水のほとりに伴い
魂を生き返らせてくださる。
主は御名にふさわしく／
わたしを正しい道に導かれる。
死の陰の谷を行くときも／
わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭、あなたの杖／
それがわたしを力づける。
わたしを苦しめる者を前にしても／
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ／
わたしの杯を溢れさせてくださる。
命のある限り／
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り／
生涯、そこにとどまるであろう。』

礼拝讃美歌⇒330 番 (旧 90 番 B)

『主はわが飼い主』

聖書⇒詩編 36 編 6~10 節 (ES 姉)

『主よ、あなたの慈しみは天に／
あなたの真実は大空に満ちている。
恵みの御業は神の山々のよう／
あなたの裁きは大いなる深淵。
主よ、あなたは人をも獣をも救われる。
神よ、慈しみはいかに貴いことか。
あなたの翼の陰に人の子らは身を寄せ
あなたの家に滴る恵みに潤い／
あなたの甘美な流れに渴きを癒す。
命の泉はあなたにあり／
あなたの光に、わたしたちは光を見る。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 4 章 10~11 節

『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。』

(祈り)

讃美歌⇒510 番 (KH 姉)

『まぼろしの影を追いて』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (EK 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒139 番（旧 48 番）

『神の小羊』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 15 章 25、33 節（NH 兄）

『イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。』

昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。』

聖書⇒出エジプト記 10 章 21~25 節

『主はモーセに言われた。「手を天に向かって差し伸べ、エジプトの地に闇を臨ませ、人がそれを手に感じるほどにきなさい。」モーセが手を天に向かって差し伸べると、三日間エジプト全土に暗闇が臨んだ。人々は、三日間、互いに見ることも、自分のいる場所から立ち上がることもできなかったが、イスラエルの人々が住んでいる所にはどこでも光があった。ファラオがモーセを呼び寄せて、「行って、主に仕えるがよい。ただし、羊と牛は残しておけ。妻子は連れて行ってもよい」と言うと、モーセは答えた。「いいえ。あなた御自身からも、いけにえと焼き尽くす献げ物をいただいて、我々の神、主にささげたいと思っています。』

聖書⇒アモス書 8 章 9~10、2e 節

『その日が来ると、と主なる神は言われる。わたしは真昼に太陽を沈ませ／白昼に大地を闇とする。わたしはお前たちの祭りを悲しみに／喜びの歌をことごとく嘆きの歌に変え／どの腰にも粗布をまとわせ／どの頭の髪の毛もそり落とさせ／独り子を亡くしたような悲しみを与え／その最期を苦悩に満ちた日とする。

「わが民イスラエルに最後（ケーツ）が来た。もはや、見過ごしにすることはできない。』

聖書⇒イザヤ書 13 章 9~10 節

『見よ、主の日が来る／
残忍な、怒りと憤りの日が。
大地を荒廃させ／
そこから罪人を絶つために。
天のもろもろの星とその星座は光を放たず／
太陽は昇っても闇に閉ざされ／
月も光を輝かさない。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 1 章 4 節

『キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。』

礼拝讃美歌⇒395 番（旧 252 番）（YS 兄）

『慈しみ深き』

《建徳要旨》